



祝祭日には



を掲げましょう

いまこそ集落創生

第24回 七日町地区



一年の安寧や無病息災を願う「お歳灯」。若者が裸でみこしを担ぎ、餅をつく姿が勇壮で、毎年会場も活気にあふれる。

「七」のつく日に市がたつていたことから命名されたと言われる七日町地区。古くは羽州街道の宿場町として栄え、一角には本陣が置かれていました。明治時代に登記所のほか、役場や数多くの商店が建ち並び、賑わいあふれる金山の中心街に発展。現在は町最大の地区であり、900名程が暮らしています。「約300世帯を抱える七日町でも、少子化高齢化が深刻。ここ10年で10軒の空き家が解体されたが、次々と出てくるだろう」と押切民夫区長は嘆きます。街並み景観づくりへの影響や比較的家屋が密集する地区の安全面が心配されます。

住民が安心、安全で快適な地域生活が送れるよう「結束と共助」が地区運営の要。隣組長を対象に防災研修会を開いているほか、円滑な運営に欠かせない隣組のコミュニケーションの充実をねらい、各隣組の独自事業に助成金を交付しています。また、増加する高齢者が楽しく活き活きと生活できるように、老人クラブが主体となり、居場所づくりやコミュニケーションの充実を図っています。区長は「まずは多世代間の交流が大切。いざという時の連携にも役に立つ」と話します。

目指すのは、中心地区としてふさわしい七日町。金山まつり、山神祭、地藏尊祭、お歳灯など多くの伝統行事が残っています。その継承はもちろん、新しい事業も取り入れていく方針です。10年程前に復活した「はだかみこし」や一昨年から始めた「素人のど自慢大会」などがそう。地区の活気づけりの一翼を担っています。「これからも全住民が充実した生活が送れるよう、一体となり取り組んでいく」と区長は意気込みます。

金山町の人口は、5,393人（1月末現在）

男性	2,628人（-8）
女性	2,765人（-5）
世帯数	1,759世帯

▼1月の異動

出生	3人
死亡	9人
転入	1人
転出	8人

編集 幸記

▼3月は卒業シーズン。金山でも多くの方が卒業を迎えることでしょう。広報でも平成29年6月号から連載してきた「道草便り」が本号で卒業。山大学生が毎月1地区ずつ全地区を訪れ、たくさんの方が生まれました。メインで取材していた学生もこの3月に大学を卒業。山形を離れるようで寂しいですが、これからは金山と関わりたいと言ってくれています。この子たちが今流行りの「関係人口」なのかなと思いつつ、また会えることを楽しみにしています。（つま）